



2013年9月8日～13日参加

### 西南学院大学3年 智之さん

大学生のうち一度は海外を訪れて、日本という国を外側から観てみたい！そんな想いから今回のスタディーツアーに参加させていただきました。カンボジアの空港に着いたとき、日本とはまるで違う光景に圧倒されてしまいました。現地駐在員の曾田さんがCMCとサインペンで大きく書いてある紙を両手に広げて出迎えてくれたのを見て、ようやく自分はカンボジアにいるのだと認識しました。バスでタブロムホテルまで向かう途中も、目に映る光景が新鮮で眠気が吹き飛びました。特にバイクを3、4人でヘルメットも被らずに一台に乗っているのには笑いさえ起きました。



二日目はアキラ地雷博物館と一二三日本語教室を訪れました。アキラ地雷博物館では、ポルポトの話や、大量虐殺の話、そして地雷の話の詳細に聞くことが出来ました。一見のどかで平和に見えるカンボジアで、ほんの数十年前にこのような出来事がおきていたなんて信じられませんでした。アキ

ラさんは戦争に駆り出された後、償うために強い意志を持って地雷の撤去を今も続けているので、本当に尊敬に値する人物だと思いました。その後、一二三日本語教室を訪れました。現地の学生と交流するのはここが初めてなので、ものすごくワクワクし

ていました。教室に入ってまずは挨拶から。どうやら日本語が皆上手そうです。話しているうちに、ほとんどの学生が日本語を活かしてツアーガイドや教師や留学など、夢を持っていることが分かりました。経済的に恵まれていて、なんとなく大学に通い始めた自分が恥ずかしくなりました。スピーチを聞かせてもらい、それぞれの夢を熱く語ってもらい、刺激を受けました。

三日目は中学校の訪問と地雷被害者のインタビューでした。中学校では、一二三教室の時とは違い、日本語は通じないので、片言の英語と指差し会話帳カンボジア編を片手に、どうにかコミュニケーションを取りました。私の下手な発音で、中学生に散々笑われましたが、楽しく時間を過ごせ



ました。ここで感じたことが、カンボジアの人の笑顔はとても素敵だなということです。見ていると、こっちまで元気になれます。そして、心がとても広いです。日本は経済的にカンボジアよりもはるかに恵まれています。しかし、心の豊かさはカンボジアの人のほうがあるのではないかと思いました。幸せってなんだろうとふと考えさせられました。地雷被害者のインタビューでは、私と同年の青年の話が印象に残っています。畑仕事の最中に地雷を踏んでしまい、その後仕事を探してもみつからないという状況でした。カンボジアでは、福祉制度があまり充実しておらず、彼は絶望しているようでした。人と普段あまり関わらなくなってしまった様なので、今回私たちと話せて嬉しいと言っていました。自分の力では彼を救うことはできません。しかし、彼が元気になるきっかけとなることならできるかもしれません。無力な自分にもできる範囲で人に影響を与えていきたいと思いました。

四日目はトンレサップ湖と孤児院を訪れました。トンレサップ湖では、人々が水上生活を営んでいて、水面に浮かぶ病院や学校や民家、そしてマングローブなど、見たことのない世界が広がっていて面白かったです。孤児院では、バスが到着すると同時



に子供たちがお出迎えしてくれて、とても嬉しかったです。日本の歌や折り紙やバレーボールをして遊びました。みんな活発で、圧倒されつつも楽しく過ごせました。やはり笑顔が素敵で私は元気をもらいました。

この日の夜、タブロムホテルに戻って思

っていたことがあります。それはまだ日本に帰りたくない、もっとカンボジアに滞在したいということです。現地の人々の温かさや親しみやすさ、そして輝いている笑顔や生きる力に触れて、私はこの国と人に魅了されてしまいました。

五日目の最終日は、アンコールワットなどの遺跡の観光でした。ここで一番印象に残っているのはアンコールワット！と言いたいところですが違います。それは遺跡を出てからバスに乗るまでに群がってきた子供たちです。「5ドルでこれを買って下さい！ 3ドルでもいいからお願いします！」こんな子たちでいっぱいでした。とてもじゃないけど全員分買ってあげるわけにもいかず、逃げるようにバスに乗り込みました。一人の少女が窓ガラスを叩きながら「お願いします。」と訴えかけているのを見て心がとても痛みました。仮に買ってあげたとしても、本質的に彼女らを救えるわけではありません。私はどうしていいかわかりませんでした。

このような日々を私なりに感じてスタディツアーはあっという間に終わりました。短期間ではありましたが、ものすごく密度の高い日々を過ごすことが出来ました。現地でお世話になったガイドのアンさん、駐在員であり、同じ部屋の住人としても心の支えとなっていた曾田さんの二人には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回初めて海外を訪れる経験をしたのですが、カンボジアでよかったと心から思っています。現在は学生団体がカンボジアに支援物資を送る活動を行っています。カンボジアの人々と触れて、自分自身が多くの気づきと影響を受けることができたので、自分のできる範囲で貢献することで感謝の気持ちとしたいです。来年の夏もう一度カンボジアを訪れて今回は見る事が出来なかったプノンペンや国境付近、そして、もう

一度会いたい人のところを訪れたいと思います。最後になりますが、今回お世話になったCMCの皆さん、そして星原さん、曾田さん、アンさん、本当にありがとうございました！